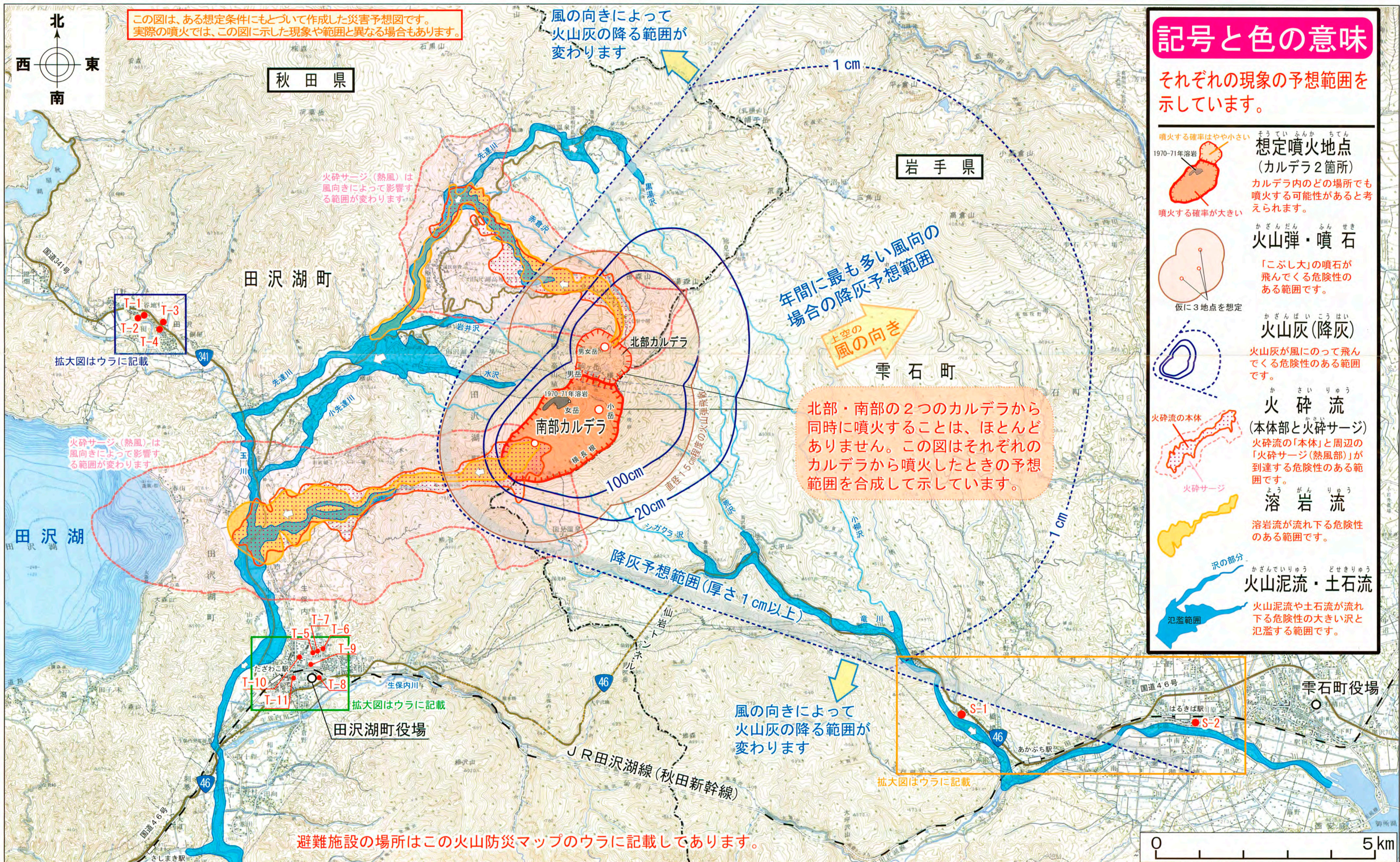


秋田駒ヶ岳火山防災マップ

万が一の噴火に備えて 秋田駒ヶ岳は活火山です

このマップの内容についてのお問い合わせ先

田沢湖町役場(町民課) TEL.0187-43-1111
 雫石町役場(総務課) TEL.019-692-2111
 秋田県(総合防災課) TEL.018-860-1111
 岩手県(総合防災室) TEL.019-651-3111
 国土交通省 湯沢工事事務所(調査第一課) TEL.0183-73-3174
 国土交通省 岩手工事事務所(調査第一課) TEL.019-624-3131



記号と色の意味

それぞれの現象の予想範囲を示しています。

- 噴火する確率はやや小さい**
1970-71年活期
- 噴火する確率が大きい**
- 想定噴火地点(カルデラ2箇所)**
カルデラ内のどの場所でも噴火する可能性があると考えられます。
- 火山弾・噴石**
「こぶし大」の噴石が飛んでくる危険性のある範囲です。
- 火山灰(降灰)**
火山灰が風によって飛んでくる危険性のある範囲です。
- 火砕流(本体部と火砕サージ)**
火砕流の「本体」と周辺の「火砕サージ(熱風部)」が到達する危険性のある範囲です。
- 溶岩流**
溶岩流が流れ下る危険性のある範囲です。
- 火山泥流・土石流**
火山泥流や土石流が流れ下る危険性の大きい沢と氾濫する範囲です。

避難場所	田沢湖町	雫石町	火山の異常を見つけたら	秋田駒ヶ岳の異常現象についての連絡先
	T-1 田沢コミュニティホーム T-2 田沢町民体育館 T-3 田沢中学校 T-4 田沢小学校	S-1 橋場小学校 S-2 御明神公民館		秋田地方気象台(技術課) TEL.018-823-8291 盛岡地方気象台(技術課) TEL.019-622-7868

このマップを作成した目的

秋田駒ヶ岳は、わたしたちの町に温泉や素晴らしい景観など火山の恵みをたくさん与えてくれる大切な山です。しかし、一方では、秋田駒ヶ岳はこれからも噴火をすることも可能な活火山でもあるのです。

1932(昭和7年)や1970~71(昭和45~46)年の噴火では、幸いなことに大きな被害はありませんでしたが、今後、もし噴火した場合にそなえて「活火山・秋田駒ヶ岳」のことをよく知っておくことも大切です。

この『火山防災マップ』は、秋田駒ヶ岳の過去の火山活動や、もし噴火した場合に想定される火山災害などを地域のみなさんに知って頂くために作成したものです。

なお、近年の秋田駒ヶ岳は静穏な状態ですので、すぐに噴火が起きるような兆候は現在のところありません。

近年(明治時代以降)の火山活動

秋田駒ヶ岳は、下の表に示すように近年(明治以降)には3回噴火しています。このうち最も新しい1970~71年の噴火では、右の写真のように少量の溶岩流を噴出しました。この溶岩流の跡は、現在でも女岳西側斜面にはっきりと見ることができます。

1932年の噴火活動は女岳の南西側、南部カルデラの中に火口列ができ少量の泥流と溶岩などの噴出がありました。このときは有害な火山ガスの発生や火口周辺の樹木の枯死などが確認されています。

噴出した年	噴火の内容
1890~91(明治23~24年)	12月から翌年1月まで噴火(?)。鳴動や噴石があったらしいが詳しいことは不明。
1932(昭和7年)	7月21~30日まで南部カルデラで小規模な噴火(水蒸気爆発)。火口列を形成。少量の降灰と泥流あり。樹木の枯死や有害な火山ガスの発生あり。
1970~71(昭和45~46年)	8月末頃に女岳山頂に噴気孔が形成。9月18日~翌年1月26日まで女岳山頂から噴火。頻りに爆発し溶岩流を少しずつ流出。噴出物総量約170万m ³ 。

噴火現象の説明

- 溶岩流**
どろどろの溶岩(マグマ)が火口からあふれて流れ出したものです。普通は、速度が遅く、走って逃げる事ができます。溶岩流の通過した場所は全て焼き尽くされ埋められてしまいます。
- 噴石・火山弾**
噴火により高温の岩石が火口から放出されます。破壊力が大きく火口付近の建物などは容易に破壊されます。時には直径1m以上の岩塊が飛んでくることもあるので、噴火時には火口の近くに近寄ると大変危険です。
- 火山泥流・土石流**
火山泥流は、火砕流や放出された噴石や火砕流の熱により、斜面の雪が融けて発生します。土石流は、火山灰が斜面に堆積して水が地面にしみ込みにくいときに雨が降った場合、雨水が一気に川に集まり発生します。

火砕流

高温の火山灰や岩塊、火山ガスなどが混じり合い斜面を高速(時速数十km)で流れ下ります。高温のガス(火砕サージ)は本体部よりも速くまで達し大きな被害をもたらす極めて危険な現象です。

火山灰(降灰)

噴火によって火口から放出されます。火山灰は細かいため風に流されて風下側に多く降り積もります。通常は南西風が多いため主に東側に積もると予想されますが、天候や時期によって風向きが異なるため注意が必要です。

その他の現象

- 地震**: 噴火の前後に大きな地震がおこることもあります。また、地震によって地面が大きく変形したり(地殻変動)することもあります。
- 火山ガス**: 火口から有毒な火山ガスが放出されることがあります。低い場所に溜まりやすいので噴火時にはカルデラ内に入らないでください。
- 山体崩壊**: 極めて稀ですが、地震や噴火が引き金になり山が大きく崩壊することがあります。

秋田駒ヶ岳の噴火について - Q&A -

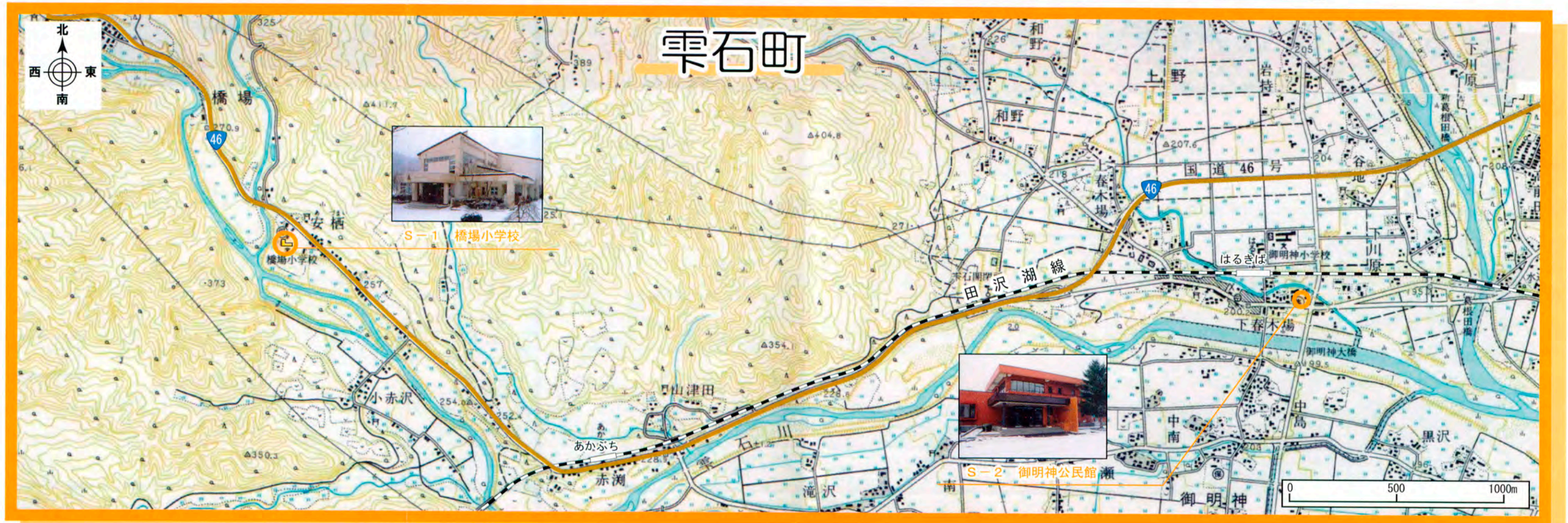
- 質問1 秋田駒ヶ岳は活火山なの?**
そのとおりじゃ。活火山は「過去10,000年間に噴火したことがわかっている火山」と、噴火記録がなくとも現在活発に噴気に噴き出していることをいうんじや。秋田駒ヶ岳は、みんなも知っておるとおり1970年などに噴火をしているから、立派な活火山というわけじゃ。
- 質問2 秋田駒ヶ岳はどんな噴火をする火山なの?**
今までの噴火からみると、溶岩流、火山灰や噴石の噴出、もしかしら火砕流の発生などもあってもいいな。もし、山の上に雪のある時期に火砕流が発生すると、雪が一気に融けて火山泥流が起きるかもしれない。それから火山灰が山の斜面にたまった後に雨が降ると、今度は土石流が発生して町まで流れ下るかもしれない。噴火が終息したからって気が抜けるのが火山災害の恐ろしいところじゃ。
- 質問3 もしも噴火する場合、何か前ぶれはあるの?**
過去の噴火のときには、噴気が増えたり、山にある笹が枯れたりしたんじや。それから温泉の温度が急に上がった、地震が増えたりすることも考えられる。このような現象や何かおかしいことを見つけたら、地元の町役場か気象庁(仙台管区気象台)にすぐに連絡するといいじゃろう。
- 質問4 次はいつ噴火するの?**
じつは仙人のわたしたちでも、よく分からないんじや。ただ、秋田駒ヶ岳で過去3回の噴火は偶然なのかもしれんが、40年に一度くらいの間隔じゃったから、もしかするとあと10~20年のうちに一度くらい噴火が起きるかもしれない。おっと、これはわいの勘にすぎんが。ちなみに、いつ噴火するかと心配するよりも、いつ噴火しても大丈夫のように普段から心がけておけばいいのじゃ。
- 質問5 噴火すると、どのあたりまで被害がおよぶの?**
次の噴火がどのくらいの大きさの規模なのかで被害がおよぶ範囲は変わってくるんじや。近年の噴火のように、小規模な噴火なら市街地への被害はほとんどないが過去2000年間に何回かあったような大規模な噴火が起きたら、上にあるマップに示したような範囲が影響を受けることになるので予想されるんじや。北部カルデラから噴火する場合と南部カルデラから噴火する場合で被害がおよぶ範囲が変わるから、噴火が始まったらテレビや新聞などをみて「火口がどこにできたか」を注意することじゃな。
- 質問6 噴火に備えるには、どうしたらいいの?**
次のようなことを普段から心がけておけば安心じゃ。
① 秋田駒ヶ岳が活火山であり、どのような噴火が起きやすいかなど、火山としての特徴を知っておく。
② 家族で避難場所を確認しあっておく。
③ 地震に備えて家具の固定や壁の補強をしておく。
④ 普段から非常持ち出し品を準備しておく。
- 質問7 もしも噴火が始まったら、どうすればいいの?**
噴火が始まるとあわてたり、パニックになりやすいから、まずは落ち着いて正確な情報を知ることじゃ。デマにまどわされないように正しい情報(気象庁の火山情報(下の表を参照)など)をきいてあわてずに避難などの行動をすることじゃ。普段から心がまえをしっかり持っておくことが一番じゃな。

非常持ち出し品

- 着替え(長そで上着、シャツ、ズボン、下着、くつ下など)
 - 手ぶくろ・軍手
 - マスク
 - 非常食水3リットル以上、乾パン、もち、缶詰、缶詰食品、7分、チョコなど)
 - 常備くすり、救急箱
 - 現金・小銭
 - 携帯電話
 - ラジオ(予備電池)
 - 懐中電灯(予備電池)
 - 毛布・タオル
 - 予金通帳・印鑑
 - 懐中電灯(予備電池)
- 赤ちゃんがいる場合 □ 母乳ポンプ、ミルク、おむつ
- お年寄りがいる場合 □ 常備薬 など
- 普段から準備しておきましょう
- ヘルメット(防災ずきん)
 - かさ・カッパ
 - 健康保険証
 - ろうそく・ライター

避難場所位置図

避難先・経路等については、**防災行政無線等**による誘導や指示に従ってください。



雲石町役場 TEL: 019-692-2111

番号	施設名	所在地	電話番号
S-1	橋場小学校	橋場安栖野63-2	019-692-3482
S-2	御明神公民館	上野上野5	019-692-3228

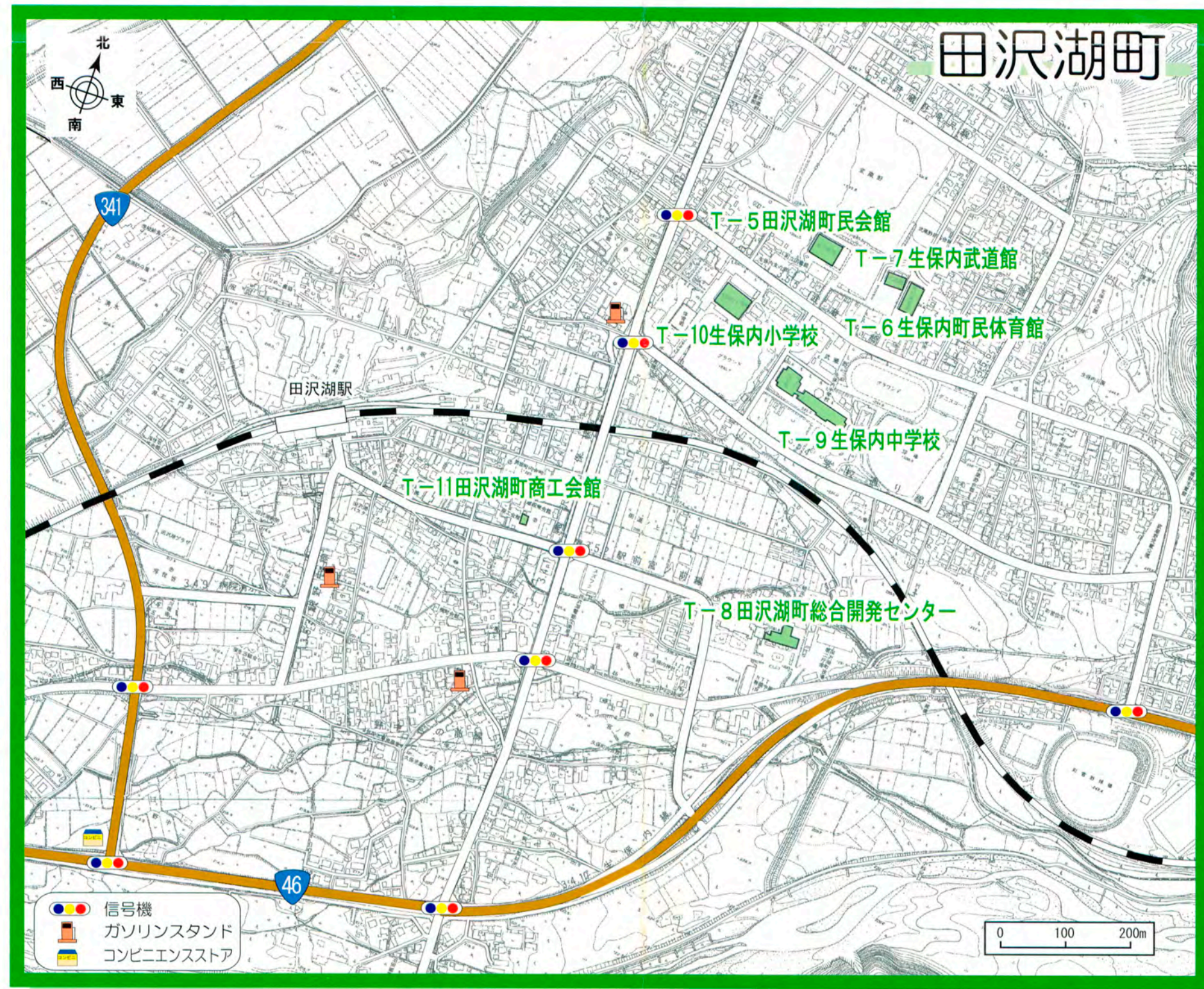
田沢地区

番号	施設名	所在地	電話番号
T-1	田沢コミュニティホーム	田沢字高屋151	0187-42-2810
T-2	田沢町民体育館	田沢字高屋59	0187-42-2815
T-3	田沢中学校	田沢字高屋166-5	0187-42-2310
T-4	田沢小学校	田沢字大山7	0187-42-2110

田沢湖町役場 TEL: 0187-43-1111

生保内地区

番号	施設名	所在地	電話番号
T-5	田沢湖町民会館	生保内字武蔵野105-1	0187-43-3143
T-6	生保内町民体育館	生保内字武蔵野105-1	0187-43-1975
T-7	生保内武道館	生保内字武蔵野105-1	0187-43-1989
T-8	田沢湖町総合開発センター	生保内字宮後27	0187-43-1622
T-9	生保内中学校	生保内字武蔵野105-1	0187-43-1181
T-10	生保内小学校	生保内字武蔵野111	0187-43-0243
T-11	田沢湖町商工会館	生保内字街道ノ上85	0187-43-0372



もし噴火が始まったら

- 気象台が発表する火山情報に注意しましょう。
- 市町村長から避難勧告などの指示があった場合には従いましょう。
- テレビやラジオのニュース、新聞、市町村の広報などを聞いて正しい情報を得ましょう。
- デマやうわさに惑わされないようにしましょう。

避難する場合は...

- ① 左の絵のような格好が避難に適しています。
- ② 避難の前に戸締まり、電気、ガスの元栓を確認しましょう。
- ③ あわてず落ち着いて速やかに行動しましょう。
- ④ お年寄り、赤ちゃん、身体の不自由な人、外国人など言葉の分からない人の避難を助けましょう。
- ⑤ 市街地では車は使わず徒歩で移動しましょう。



秋田駒ヶ岳火山防災マップ

この[A3サイズ集約]マップは、A1版の「秋田駒ヶ岳火山防災マップ」をA3サイズに集約したものです。より詳しい情報はA1版マップをご覧ください。

秋田駒ヶ岳は活火山です

この「火山防災マップ」は、秋田駒ヶ岳の過去の火山活動や、もし噴火した場合に考えられる火山災害などを地域住民に広く知っていただくために作成したものです。なお、近年の秋田駒ヶ岳は静かな状態ですが、すぐに噴火が起きるような兆候は現時点では見られません。

記号と色の意味

それぞれの記号や色は、火山活動の状況や危険度を示しています。

- 噴火の頻りによって**: 噴火の頻りによって、火山活動の状況を示しています。
- 火山の噴火の頻りによって**: 噴火の頻りによって、火山活動の状況を示しています。
- 火山の噴火の頻りによって**: 噴火の頻りによって、火山活動の状況を示しています。

噴火現象の説明

秋田駒ヶ岳の噴火活動の歴史は、約2000年前に発生した噴火(溶岩流・火砕流・火山灰・火山泥流)から、今も続く噴火活動(噴火・火山灰・火山泥流)まで続いています。噴火の規模は、それぞれ異なる特徴を持っています。噴火の規模は、それぞれ異なる特徴を持っています。

避難場所

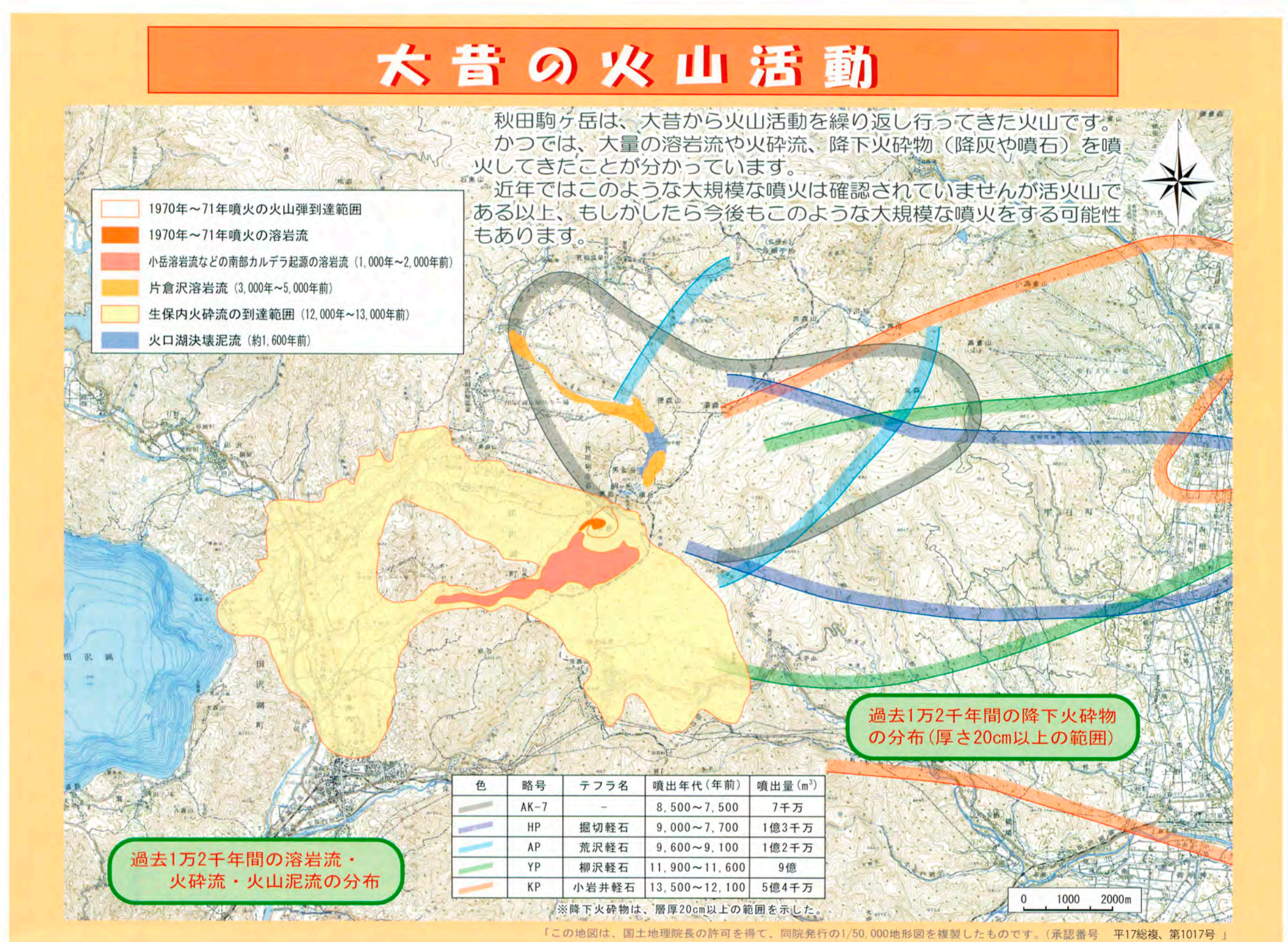
秋田駒ヶ岳の噴火活動の歴史は、約2000年前に発生した噴火(溶岩流・火砕流・火山灰・火山泥流)から、今も続く噴火活動(噴火・火山灰・火山泥流)まで続いています。噴火の規模は、それぞれ異なる特徴を持っています。

噴火現象の説明

秋田駒ヶ岳の噴火活動の歴史は、約2000年前に発生した噴火(溶岩流・火砕流・火山灰・火山泥流)から、今も続く噴火活動(噴火・火山灰・火山泥流)まで続いています。噴火の規模は、それぞれ異なる特徴を持っています。

噴火現象の説明

秋田駒ヶ岳の噴火活動の歴史は、約2000年前に発生した噴火(溶岩流・火砕流・火山灰・火山泥流)から、今も続く噴火活動(噴火・火山灰・火山泥流)まで続いています。噴火の規模は、それぞれ異なる特徴を持っています。



火山用語三辞典

水蒸気爆発: 高温・高圧の水蒸気の作用で起こる爆発的な噴火です。新しいマグマの噴出はなく、古い岩石と水蒸気が爆発的に噴出されます。大規模な水蒸気爆発は、山体の崩壊などを伴うことがあります。

マグマの噴出: 高温のマグマが地下水や海水など多量の水が接触すると、瞬間的に気化する(液体が気体になる)ため体積が急激に膨張します。この時に周囲の岩石などを吹き飛ばす爆発をマグマ水蒸気爆発と呼びます。非常に破壊的で危険な現象です。

火山性地震: 火山地域で、火山活動が原因で発生する地震のことです。火山性地震の発生には火山体内のマグマや火山ガス等の動きが関係しているために火山性地震よりもさらに噴火活動に密接な関係があると言われています。

火山性地震: 火山体の内部またはその周辺地域で発生する、震源の浅い地震のことです。このような地震を火山性地震以外で発生する通常の地震と区別して、火山性地震と呼びます。

溶岩流: 溶岩流は、どろどろの溶岩(マグマ)が火山口からあふれて流れ出したものです。普通は、速度が遅く、走って逃げることもできます。

降下火砕物: 火山口から噴出される火山灰や小石・岩塊などのことです。噴火規模や上空の風により、遠くまで到達することもあります。

火砕流: 火山口から噴出されており、あるいは溶岩ドーム等の崩壊により高温の火山灰・軽石・岩塊、火山ガス等がまわりあって斜面を流れ下る現象です。温度は数百度、速度は時速100km以上にも達します。

火砕サージ: 火砕流本体から分かれて流れ下る高速・高温の砂塵のような現象です。破壊力があり、火砕流本体とともに大変危険な現象です。

ベースサージ: 水蒸気爆発やマグマ水蒸気爆発などで吹き飛ばされた岩石を巻き、火山口周囲に高速で広がる現象です。破壊的で危険な現象です。

火山泥流・土石流: 火山泥流は、噴火によって火山口付近の雪が解けたり、火山灰が崩壊したりして発生します。土石流は火山灰が斜面に堆積した後に雨が降ったときに、雨水が地中にしみこみにくくなり土石と泥水がまじりあって流れ下る現象です。

噴火: 火山口や山腹の割れ目から立ち上がる、火山ガスや水蒸気などのことです。

マグマ: 岩石が融けたもので、地下に存在するものを指します。地表に現れたものは一般に溶岩と呼びます。

左の図は、おもて面の『秋田駒ヶ岳火山防災マップ』をA3サイズに集約したものです。

コピーして目につきやすい所(冷蔵庫、トイレなど)に貼ってご活用下さい。



このマップもつかってね。

【コピーはご家庭内の個人的使用に限ります】

防災科学技術研究所

